

東京都退職校長会 東京都退職公務員連盟

## 千代田・中央支部だより

令和4年7月16日 (第22号)

発行者 鈴木 正孝  
(東京都退職校長会 千代田・中央支部長)

TEL 03-3639-0460

### 支部長として二年目 を迎えるにたって

千代田・中央支部長 鈴木 正孝



昨年度、コロナ禍で総会  
を中止にせざるを得ず、そ  
れでも出来ることを考え、  
支部会議もオンラインを取  
り入れて実施してきました。  
皆さんに支えられ一年、  
今年度は総会も無事行うこ  
とが出来、とても嬉しく思  
います。支部長になっ  
てみて、岩谷先生（前支  
部長）の功績の大きさを  
改めて感じます。これか  
らも、支部の皆さんと  
共に活動していきたいと  
思います。

令和4年度について、

1. ウォーキングを3回実施したい
2. 支部だよりを2回発行します。個人情報に配慮しながらも本部のホームページにも載せたい。
3. ミニ講演、近況報告を充実させ、各人の隠れた才能を発見して、会員それぞれが自分の生き方に反映させていかれるような支部にしたい。
4. 千代田区・中央区の教育長先生に本支部の活動を報告し、お役に立つことがあれば協力したい。
5. 現職の幼稚園園長、小中校長会会長さんとお会いする機会を作り、教育現場の現状を知ると共に、退職後の過ごし方についてアドバイスをしたい。

以上のような取組を考えています。今年度も宜しく願いいたします。



### 瀬川 徹先生 功労賞受賞



東京都退職校長会から、本支部の瀬川 徹先生が功労賞をいただきました。都の総会では表彰の機会がありませんでしたので、支部にて表彰式を行いました。

おめでとうございます



### ご 報 告

6月29日 (水)

今年は6月後半から毎日暑い日々が続きました。その中、千代田区と中央区の教育長先生を訪問し、総会実施のご報告をさせていただきました。



午前10時、中央区平林教育長先生を訪問しました。生島次長先生も同席して、私たちの話をきいてくださり、また晴海フラッグなど区の人口増加の中、地域の子供たちへの教育を大切に考えていることなどのお話をしてくださいました。

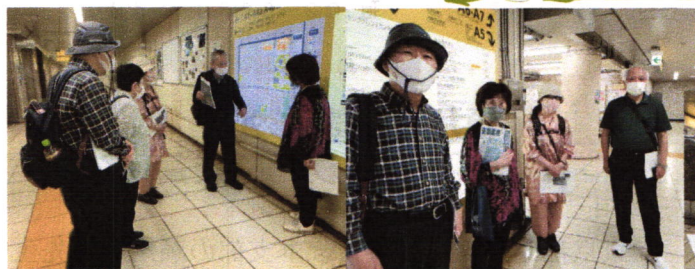
午後1時、千代田区堀米教育長先生を訪問しました。堀米先生は様々な教育現場経験を踏まえ、現場に寄り添い、現在の学校が大変苦勞していることをよく理解した上で、多忙でも多忙感をもつのではなく、教育という仕事を楽しんで欲しいとお話くださいました。



中央区も千代田区も、お忙しい中、貴重な時間を作ってください、お話ししてくださったこと、心より感謝しています。



## 令和4年6月11日(土) 日比谷公園散策 担当 瀬川 徹



午後から雨の予報があり、心配されましたが、穏やかな一日となりました。

まず「内幸町」駅に集合し、散策コースを説明して、地上に出ました。

かつて鹿鳴館があった場所を説明、明治外交の華やかな場所であり帝国ホテルに隣接していました。



東京市政会館

この近くの東京市庁の官舎で樋口なつ（一葉）誕生、隣接した官舎には夏目漱石の兄が居住。妻夏目鏡子の後の談話では、「一葉を妻に」という話もあったとのこと。1984年からの千円札漱石と五円札一葉の肖像が実現していたら……など想像のエピソードも伝えました。



国会通りの歩道を進み、日比谷公会堂と同じ建物の東京市政会館に向かいました。

内部を見学し、資料を元にして今日のコース予定についてお話をしました。



日比谷公園に入りました。6月半ばで新緑の木々、紫陽花などの花々が特に美しく、思わず皆で写真撮影をしたり鑑賞したりして楽しみました。



日比谷公園は、江戸時代は大名屋敷、明治初期は陸軍練兵場、これが青山に移転し、和洋を備えた庭園造成に決定しました。困難の多い中、明治神宮を設計しドイツ留学経験もある東大の本多静六博士が、多くの方々に推薦され設計しました。（給料1/4貯蓄説でも、財を成し有名な人物です）





随所にベンチもあり、コロナが減少したとはいえ入園者も多くなく、ゆっくり散策を楽しむことが出来ました。



自由に散策し、お昼は「松本楼」で美味しい食事のひとときを過ごすことができました。

千代田図書文化館へ。明治41年、東京市立図書館として開館しました。昭和20年5月の戦災で、20万余冊の本と共に焼失。昭和32年、都立として三角の土地に再建。平成20年、開館100周年記念として千代田区立となりました。図書館の他、常設展、特別展、大小ホールでの講演会も日々あることを説明しました。



常設展示室は5つの部屋があり、ゆっくり見学できました。メインテーマは「千代田にみる都市の成立と展開」です。区内に多くの土器等も発掘されています。私はここに7回程来ていますが、まだまだ未熟だと感じています。

皆さん、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。



### 参加した会員の声

瀬川先生の講師によるウォーキングで、地下鉄の出口を間違えて集合場所に行けず、支部長の電話で助かりました。無事、皆と合流！

瀬川先生が詳しく調べられた日比谷公園の歴史に、改めて公園を見直し、楽しく過ごしました。松本楼は初めてでしたが、次の予定があるため名物のカレーが食べられず、残念！再来します。最後までご一緒できず失礼しました。

佐藤 忠三

久しぶりに、支部の皆さんが大勢お集まりくださって、楽しいウォーキングが出来ました。瀬川先生、ご担当くださり本当にありがとうございました。

貴重な資料もご準備くださり、よい学びの場となりました。日比谷公園でこうして充実の活動が出来ましたことに感謝しております。

岩谷 榮子



ウォーキング「日比谷公園界隈」に参加して、走馬燈のように懐かしさが溢れだしてきました。

日比谷公園には沢山の思い出があります。

まず初めての思い出は、大学卒論を書くために日比谷図書館に夏休み期間通い詰めた時に、頭を整理するために公園をよく散策しました。

その次は、日比谷公園に近く徒歩範囲内の中央区立常盤幼稚園6年間の遠足で、園児達とよく遊びに来ていました。

西洋庭園のコンパクトな敷地に季節の花々が植えられ、人びとの目をいつも和ませてくれています。また、ベンチに座って休憩をとると、千代田区という都会の真ん中に緑化されたエリアあることも素晴らしいと感謝しました。

瀬川ガイドの説明から、日本初の洋式公園・本多静六林学博士が明治35年完成させた苦労話から失敗した時と「首掛けイチョウ」の存在を知りました。

天気にも恵まれた6月千代田・中央区支部の方々と訪れて、また1つ日比谷公園の思い出が増えたことを嬉しく思いました。

長谷川 真弓



瀬川先生、楽しいひとときを、ありがとうございました。地下鉄等ですぐ近くをよく通っていながら、中々ゆっくり散策することがありませんでしたので、とてもよい機会となりました。

花々を楽しみ、木々の緑の中で深呼吸し、日比谷公園の歴史も学ぶことが出来ました。沢山の資料をご準備くださったのに、自由散策の時間を多く取り過ぎて、申し訳ありませんでした。 豊田 美代子

## 参加した会員の声

支部の皆様の感想です。

本当に楽しい一日でしたね！



瀬川先生の案内で本年度第一回のウォーキングがありました。私は約束の時間よりも15分ぐらい早く着いたにもかかわらず、集合場所の内幸町駅の改札口もう多くの皆さん集まっていた、瀬川先生のあふれるような話を聞いていました。

始めに見学したのは日比谷公会堂と同じ棟の裏面にたたずむ、あまり知られていない市政会館というところでした。「ここに入っているの？」と思わず口ずさんでしまった位静かで重厚な歴史を感じさせる建物でした。この中で私たちは椅子に座ってじっくりと、資料を見ながら見学場所の日比谷公園等の話を瀬川先生から伺いました。

日比谷公園は日本の公園の中でも最もよく知られている公園の一つだと思います。しかし、話によると公園の設計段階から、どんな形式の公園にするか中々決定できなかったことを知りました。おそらく東京のど真ん中の公園としてふさわしい公園はどんなものか色々な考え方が交錯し、決定できなかったものと思われます。思わず当時の人々の熱い心意気を感じました。

さて、今回のウォーキングにはほとんどの会員の皆さんの参加がありました。久しぶりに会ったメンバーと、かわるがわる交代しながら、近況報告などをしながら親睦を深めていったように思います。また、天気にも恵まれ暑くもなく寒くもなく、雨にも合わず絶好の散策日和だったように思います。昼食はカレーライスで有名な老舗の松本楼でいただきました。私はオムハヤシライスをいただきました。卵がとろけるようで、しかもリーズナブルの料金でとても美味しかったです。

公園には多くの人々が散策していました。色とりどりの草花と年代を感じさせるような枝葉を一杯に広げた樹木に囲まれ、私たちもゆっくり散策ができたように思います。良い一日をありがとうございました。

鈴木 正孝



東京のオアシス「日比谷公園」を歴史的視点で見つめてみました。

1603年、徳川家康の江戸城構築の偉業は、海浜の「日比谷入江」に端を発していました。寒村の江戸村「日比谷入江」から船で築城に必要な石材・木材を陸揚げし江戸城が築かれました。江戸城内堀周辺には大名(上)屋敷が配置され、三代将軍家光の時代に城郭都市中心の交通網(水運と街道)が整備されました。城下は「水の都」、水路が網目状に張り巡らされました。当時のニューヨーク市を凌ぐ世界最大の都市に成長しました。正に「日比谷入江」は船による人・物資を流通させる玄関口の役割を果たしました。

そして、1868(慶応4)年9月3日、江戸が東京と改称され、同年10月13日、江戸城は皇居と改められました。「日比谷の大名屋敷跡」は官地となり、明治政府の下、東京改造の発信地となりました。当初「陸軍練兵場」、15年後に日本初「西洋風日比谷公園」(実は和洋折衷)として生まれ変わりました。日比谷公園の散策を通して、大名屋敷から日比谷、霞が関、丸の内の官庁街、商業オフィス街へと変わり行く歴史的経緯を詳しく知ることができました。欧化主義を体現した明治政府の姿を背景に、千代田地区の歴史に学ぶ良い機会となりました。

瀬川先生の心に残るガイド、そして、豊富な資料提供に心から感謝します。



三田 一則

\*\*\*\*\*ここからは、支部の皆様から自由に書いて頂いた文章のコーナーです。\*\*\*\*\*

## 晴海に居住して半世紀 つい先日のことよう！

瀬川 徹

昭和43年(1968)晴海の月島第三小図工専科として赴任。新卒辞令決定の日、港区教育委員会からも……。中央区との運命を感じる。

当時560名余の児童数、現在は1,100名を越える区内一のマンモス校となった。中央区の人口も昨年末で17万余。晴海の人口も当時は3,600人余、今は10倍となる。

私の赴任前の晴海の歴史については、昨年度ミニ講演にても話をさせて頂いたが、簡単に記す。

### ～私が居住する以前の晴海～

- ・昭和6年(1931)月島4号地76haの埋め立て完成
- ・昭和12年(1937)月島4号地を「いつでも晴れた海を望む」と東京市京橋区議会で晴海と改名
- ・昭和15年(1940)万国博のため「勝鬃橋」完成  
日中戦争激化で万博は中止
- ※同じ頃、丸の内に分散していた東京市庁舎を晴海に集める計画(今の都庁舎)があったが、結局中止となる
- ・昭和20年(1945)晴海は米占領軍が接收(月島三小も米軍に)

- ・昭和32年(1957)日本住宅公団晴海に都市型団地15棟が完成(現在はUR)
- ・昭和34年(1959)国際見本市会場(ドーム等)完成 自動車ショー等を開催
- ・南極観測船 宗谷出航(以後毎年11月出航4月帰港)昭和32年～

### ～私が居住してからのこと～

- ・昭和43年(1968)観測船「ふじ」「しらせ」消防庁出初め式を毎年見学する(1月6日)
- ・平成3年(1991)晴海客船ターミナル完成  
世界一周客船や外国の艦船送迎をその都度楽しむ。
- ・チリ、ポルトガル、スペイン等の帆船などの一般公開を毎回見学
- ・東京港まつり見学(一斉放水、船内公開を毎年見学…楽しみにしていた)
- ・平成13・14年(2000・2001)大江戸線「勝どき」駅開通 トリトンスクエア完成
- ・令和3年(2021)オリンピック選手村(7,000人収容)

以上、晴海は全て東京都港湾局の所有(都の所有)のため、跡地は大きく変化したようである。私も高齢となった。夢のようである。

もう50年以上とは……。





## 梅雨空の紫陽花

三田 一則



梅雨の合間を縫って  
柏市豊四季台を散策す  
る。雨上がりで街角の  
あちこちに咲き競う紫  
陽花が目に入る。紫陽

花の色は、土壌がアルカリ性なら赤、酸性なら青となる。花言葉は「移り気」「冷酷」。でも、土壌に適應して美しい色合を演出する紫陽花のイメージを何とか援護したくなる。ちなみに、白色紫陽花の花言葉は「寛容」である。

住宅街を抜け出して、色も形も大きな紫陽花を探して歩く。老朽化した団地が見えてくる。解体寸前なのか「立ち入り禁止」の柵の中に瑞々しい額紫陽花を見つけた。鮮やかなピンク色に輝いている。これは今年が見納めか、情景を心に刻みながら熟視する。



少し歩き進むと、3年前にリニューアルされた新団地群が見えてきた。芝生の一隅に白い紫陽花を見つける。所々に白と赤と紫の紫陽花が咲き競っていて面白い。この新団地、柏市が少子高齢化社会のコミュニティ形成のため、高齢者・世帯者混合住宅、特別老人ホームや医療・介護・幼児教育施設を集中的・計画的に造成している。



万歩計が6000歩を超え、自宅マンション隣の柏市立柏中学校に到着。中学校の花壇には「虎の尾紫陽花」が咲き、行き交う人々の心を癒してくれる。最盛期には薄紫色の「虎の尾」が校舎の一週を埋め尽くすほどの勢いだ。日頃から花壇の手入れが行き届き、四季折々の花を咲かせている。6月の主役花、紫陽花。人を育てる学び舎の風格を感じて、古の心がくすぐられる。もう少し紫陽花とのコミュニケーションは楽しめそうだ。

紫陽花三昧の6月の散歩を楽しみ、心地よい汗に満足して家路に着く。



## 楽しかった部活動

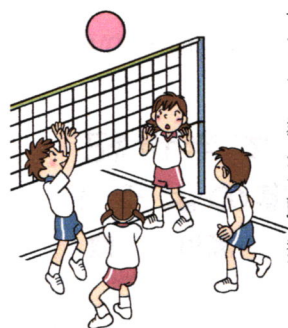
休日の部活動から地域移行

岩谷 榮子

私の学生時代は、卓球部との縁がとても深くありました。社会人となってからも、旅先で温泉卓球を楽しむことができました。

6月6日、「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」が取りまとめられ、休日の部活動から令和5年度から3年間かけて取り組まれることとなりました。

部活動が大好きな教員がたくさんいました。



正月3日以外は練習日だったり、都大会で優勝するまでは結婚しないなどと言う教員もいました。そして、翌日の授業の準備のために職員室は夜遅くまで明るく熱気も感じました。一方担当のいない部活動に、仕方なく配属される苦痛な教員

も確かにいました。そんな教員の働き改革が話題となり、教員の本務を見つめ直そうという動きの中で、部活動の地域移行が提言されたのです。

部活動の教育的意義は大変大きいと考えます。何といたってもスポーツは楽しい。活動を通じ、責任感・連帯感を涵養され、自主性の育成、人間関係の構築や自己肯定感にもつながります。また、運動系だけでなく、文化系の活動も学校だから出来ることは山ほどあります。

部活動が大好きな教員の兼務も認めながら、地域移行していくことは、教員の働きかた改革につながることは明白です。そして、勝利至上主義を脱却し、



楽しい活動を自由に選択できる環境を、地域のスポーツ団体等と学校とが連携・協働して、整備していかなければ強く思っています。子供にも学校にも、よりよい未来を願って。





## 今日歯を抜いた

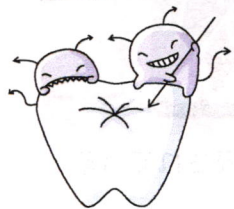
鈴木 正孝

やっと終わった。ホッとした。でもよかったのかなという気持ちもある。抜いて6時間過ぎた。麻酔が徐々に切れてきて少し痛みを感じる。抜いた後、口の中に血液が流れだすような生暖かいものを感じる。力が抜けたような感じがする。今日の夕食は柔らかいおかゆか何かを作ってもらおうと思っている。前回の甲状腺に続いてまた病気というか、治療の話になって申し訳ない。



年齢と共にいろいろなところが悪くなっている。なので仕方がないけれど、決して病気の知識や経験を自慢するつもりはない。たまたまそうってしまったのである。

歯はなるべくならば「抜かない方がいい」とよく言われる。私もかかりつけの歯科医もそういう考えでいた。そして、今回もかなり悪くなっていたにもかかわらず、抜かずに治療していた。該当の歯は左上顎の第6臼歯である。その歯は真ん中が虫歯で失われて火山のカルデラのようなものだけがかろうじて残っているだけだった。そこで穴の部分を治療して上から銀色の冠をかぶせておいたのである。ところが銀色の



冠をかむ力に支えの根の部分が耐えられなくなって、ひびが入り、痛みだしてしまったのである。したがっていくら治療してもひびが入ってしまったので痛みが抜けなかった。そこでとうとう私は抜くことを決心した。

つぎに、抜くときは次の手順で行われた。まず抜く歯全体に塗るような軽い麻酔をかけた。

しばらく置いて少し麻酔が効いたのを見はからって、歯茎の外側から本格的な麻酔注射を打った。麻酔はすでに少しかかっているものかな。かなり痛かった。さらに今打った麻酔が効いたのを確かめて、今度は歯の内側にやはり麻酔注射を打った。これもかなり痛かった。都合3回麻酔をかけたわけである。大人なので騒ぐわけにもいかずじっと我慢である。右手はズボンのベルトを、左手は座っている診察室の椅子のひじ掛けをギュと握っていた。

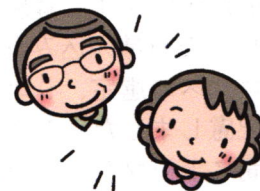
しばらくすると麻酔を打ったあたりがふんわりと温くなった。完全に麻酔が効いたのを確かめてかぶせてから、低いモーター音を響かせた回転切削器具で銀の冠を十字形に切り4つの部分に分けた。つぎに、今度は普段は受付をやっている歯科助手の女性が歯科医師の持っている太い錐の柄の部分をつたくのである。それは冠の部分を歯からはがすためである。その歯科助手はその度に「ごめんなさい」言っていた。私も何か返事をしてあげたいけれどその状態ではとても無理であった。

## 毎日の時間を使って

佐藤 忠三

日々、コロナの所為で動かないので、時を重ねる以上に余計に年を感じています。

それで、『ボケ防止になるかも』と、クロスワードパズルをやっています。毎日取っている朝日新聞の土曜朝刊と、日曜日の毎日新聞・産経新聞・日経新聞を買って来て、そのクイズを楽しんでいます。数独は、自分は好みではありませんが、妻が取り組んでいます。



時には市販のクイズ本を買って解いています。問題を読んでいると昔覚えたことが出てくることがあり、思い出して楽しんでいます。でも、もっと違った時間の使い方が出来るようになったらいい、と感じる今日この頃です。

### ★★コロナ禍の家時間に何をするか★★

とあるスマホランキングより

- 1 ゲーム・パズルをする(含スマホゲーム)
- 2 料理をする(親子料理、お菓子作り等)
- 3 ジグソーパズルをする
- 4 動画編集をする(含スマホ配信)
- 5 小説を書く(含むスマホ小説)
- 6 大掃除をする
- 7 家ヨガや体操をする
- 8 手芸をする・物作りをする

あくまで、これは一例ですが……あなたは  
どうしていますか？



## 中央区観光協会特派員6年目 としての初チャレンジ3！

長谷川 眞弓

2017第9回中央区観光協会検定試験を受験するきっかけになったのは、中央区26年間勤務した退職後に中央区観光検定試験があることを知り、受験しました。

合格して、上位者だけに与えられる特派員にもなることができました。特派員の主な活動は中央区観光協会特派員ブログを毎月アップすること。まち歩きガイドをつとめることです。

まち歩きガイドのスキルは未経験でしたので、研修を10回受講し、最後はガイドテストを受けてガイドを始めました。

2時間の行程の中で、1時間コースの観光スポットコースプランを組みます。後の1時間は指定された2～3店舗をご案内します。事前に実踏をする経験は教員経験が役に立ちました。交通量の込み具合や工事現場・安全な歩道コースの選定、シニアのお客様が多く段差にも配慮しました。しかし、コロナ禍の影響で2年間ストップしました。



### チャレンジ1

ガイド研修は2021年1回行われ、4人の特派員でのテストでした。コース2時間の中で30分何処のコースが当たるかわからないという内容でした。年代は20代から60代と幅広く、色々なアプローチ方法があることがわかり、大変参考になりました。最後に、大学観光講師からそれぞれの良さの講評を戴きました。

### チャレンジ2

毎月のブログは自分で決め自由に書くことはできますが、最終チェックは入ります。初めての企画で観光協会からの指定取材ブログを依頼されました。2022年7月から中央区観光協会から売り出す推奨商品の中で、中央区の37町名が入った風呂敷で名刺入れ製作者手づくりゆう遊慎工房 窪田慎三氏と観光協会スタッフ2名を中央区観光情報センター（エドグラン地下1階）で1時間30分取材させていただきました。

事前にネットから窪田氏の資料を読み、ブログの構成とインタビューする内容を決めて望みました。このような仕事もやって見たかったので初めての体験に胸がワクワクしました。

1951年生まれの窪田氏から名刺入れの説明を受け製作者の想いや貴重な知識も知ることができました。会社を定年退職されてからスケッチ水彩画手帳の自分の気に入った製品が見つからなかったことがきっかけで、それなら自分で作ってみようとして手作り工房（着物・帯・風呂敷）を始められて10年のキャリアだそうです。

名刺入れの工夫点は風呂敷に染められている37町名を出すために、111通り裁断する方法を見つける所を発見したことがこの名刺入れ考案のきっかけとなったこと。50枚入るマチ、4ポケット付けることで、戴いた名刺の整理もしやすくともまず自分が使ってみて、使いやすさを追求して今の名刺入れが完成したとのことでした。

これからの夢は、和布のティストで身の回りが囲まれるような作品開発（毎日1作品制作はすでに達成されています）と、コロナ禍で企画できなかった誰でもが自分の作りたいものが創れるように教室や体験コーナーを開いていきたいとも。



中央区観光情報センターで販売されている  
千社札37町名刺入れ



私も買って、特派員名刺を50枚入れて  
すっぽり入りました。



日本橋観光案内所には「日本橋」の名刺入れ  
が手に入ります。



## チャレンジ3

収録日時：6月14日(火)14:15～1時間位

場所：中央FMスタジオ（「東京スクエアガーデン」内 京橋駅直結）

2022年7月24日に放送予定です。

特派員ラジオ番組出演は、中央区観光協会特派員ブログ連携型の内容で依頼されて、年2回出演してきましたので、やっと緊張しなくなってきたところでした。

今回、中央区広報ラジオ「ウィークリー声の架け橋」という番組の収録をしてきました。特派員としてのインタビューでした。

いままでもラジオという体験はしていましたが、いつもよりも収録時間が長いのと事前に質問表は提出していますが、プロデューサーの意図の方向に脱線していくことでそれに話を合わせてついていくことがとても難しかったです。

コロナ禍での貴重なチャレンジでしたが、特派員として2023年1月第15回中央区観光協会検定試験勉強も頑張りたいです。



## 南に 北に

豊田 美代子

時間を作ることが出来て、元気なうちに、色々な所に行ってみたくと、計画を立てています。コロナ禍で配慮することは様々あっても、今しか出来ないことだと思うので、これまで行ったことのない場所を選んで観光をしています。

春、長崎に行きました。長崎は、鎖国時代に



唯一の国際貿易港として、様々文化を受け入れながら独自の文化を築き上げ、日本の文化の発展に貢献した地として、一度は旅をしたいと思っていました。原爆経験のある地としても学びは多いですが、今回は1歳の孫も同行して限りある時間

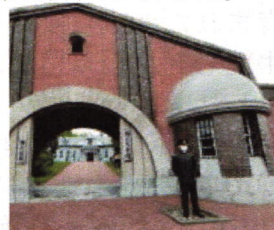
でしたから、まずは少しでも歴史に触れたいと考えました。

街には文化財があふれていました。食事にもそれぞれの物語がありました。わからん(和華蘭)料理が楽しかったです。ビードロの音にも味わいがありました。たった3日間でしたが、夢のような旅でした。



6月に北海道に行きました。前に札幌と函館には行ったことがありますが、今回は女満別空港から旭川空港までの旅を計画しました。

初日は網走から知床に向かいました。かつて北海道の中央を貫く道を、網走の囚人達が多く犠牲を払いながら開拓したことや、網走の環境を学



びました。車を走らせると、改めて北海道の広さを感じました。広い大地は丁寧に耕され、真



っ直ぐな道が何処までも続いています。気持ちよいドライブが出来ました。

この旅の目的の一つに知床半島沖の観光船クルージングがありました。4月に日本中を深閑とさせた悲しい事故があり、観

光船は再開したものの欠航になることが多く、実際に1日目も2日目の朝も欠航でした。海はそんなに荒れていないのに……と思いながら海を見ていると、少し沖に斜めに潮目が走り海水の色が変わってきました。表面的には穏やかに見えても、水の中にはうねりがあることを実感しました。

オホーツク海に出て行くことは出来ませんが、北の海を皆が守ろうとしていることを十分理解しました。その分知床の可能なところをドライブし、滝や湖を見物して、野生のキタキツネとエゾシカを間近に見ることも出来、感動でした。最初に見た時には驚いて写真を撮るのも忘れる程でした。





真っ直ぐな、そして時には大地に沿って曲がりくねった道を進み、広く美しい景色を沢山見ることが出来ました。摩周湖に着いた時には、丁度風が止まり湖面が鏡のように静まって空の雲を映していました。美瑛では青い池や滝も見ることが出来ました。富良野では広々とした花畑が心を和ませてくれました。大地で育まれた美味しい野菜や牛乳も有り難くいただきました。



最終日は旭山動物園を見学して旅を締めくくりました。これまで見たことのない景色を沢山見ることが出来、北海道は広い、日本は広い、と改めて感じた4日間となりました。



## 《今年度の事業計画》

◎支部会議 基本的に土曜日 午前10時～

4月23日 支部総会 実施済み

5月28日 実施済み

7月16日

9月10日

11月 5日

1月28日

3月11日



◎ウォーキング

6月11日(土) 実施済み 瀬川会員

10月 6日(木) 岩谷会員

2月 三田会員 日程は未定

◎ミニ講演

5月28日 豊田会員 実施済み

7月16日 鈴木会員

9月10日 佐藤会員

11月 5日 長谷川会員

1月28日 岩谷会員

3月11日 瀬川会員



◎支部だより

7月16日 22号

1月28日 23号

## あ と が き

6月のうちに梅雨が明け、連日の猛暑！何という暑さでしょうか。屋外で近くに人が居なければ、マスクを外してよいと言われても、外す人はまだ少なく、汗をかきながら我慢して過ごしているようです。感染者数が増加傾向にある状態では、仕方ないのかも知れません。

でも、マスクをしたままですっと過ごしている子供たちを心豊かに育むために、今考えるべき事があるのではないかと感じています。

今年の夏は、暑い日が続きそうです。そして電力の危機……。無事に乗り切れるようにしたいですね。皆様にとりまして、よい夏となりますように～ (T)



# 千代田中央支部ウォーキング『旧江戸城史跡巡り』

担当 支部委員 三田 一則



## (1) 10月ウォーキング

- ① 日時 令和4(2022)年10月6日(木)
- ② 集合場所 皇居東御苑大手門入り口前  
(地下鉄大手町出口 C13 a)
- ③ コース 皇居東御苑(旧江戸城大手門)  
⇒同心・百人番所⇒中之門⇒中雀門⇒富士見櫓⇒本丸跡⇒天守台  
⇒汐見坂・白鳥濠の石垣⇒二の丸庭園⇒大手門に戻る)
- ④ 集合時間 9:30、史跡巡り 9:40~11:40
- ⑤ 大手門付近で会食、  
食後解散



### 【地図】

旧江戸城サイトマップ  
(東京都教育委員会)

## (2) 旧江戸城の概要

別名：千代田城 築城主：太田道灌 築城年：1457年(長禄元年)

- ①城郭構造：輪郭式平城または平山城
- ②天守構造：連立式層塔型5重5階地下1階(1606年築)  
独立式層塔型5重5階地下1階(1621年再)  
独立式層塔型5重5階地下1階(1635年再)(いずれも非現存)
- ③太田道灌築城後の主な改修者：徳川家康、秀忠、家光(江戸期)  
宮内省・宮内庁(明治以降)
- ④主な城主：太田氏、扇谷上杉氏、後北条氏(戦国期) 徳川将軍家(江戸期)  
(以下、皇居としての所有者) 皇室(大日本帝国憲法下)、国(日本国憲法下)
- ⑤廃城年：使用中
- ⑥遺構：現存櫓・門、石垣・土塁・堀
- ⑦指定文化財：国の重要文化財(桜田門、田安門、清水門) 特別史跡
- ⑧再建造物：富士見櫓、伏見櫓・多聞櫓 桜田巽櫓、大手門



### (3) 歴史的経緯

江戸城は麹町台地の東端に、扇谷上杉氏の家臣太田道灌が築いた平山城である。近世に徳川氏によって段階的に改修された結果、総構周囲約4里と、日本最大の面積の城郭になった。

徳川家康が江戸城に入城した後は徳川家の居城、江戸幕府の開幕後は幕府の政庁となる。明治維新後の東京奠都で宮城となった。以後は吹上庭園が御所、旧江戸城西ノ丸が宮殿の敷地となっている。その東側にある旧江戸城の中心部である本丸・二ノ丸と三ノ丸の跡は皇居東御苑として開放されている。南東側の皇居外苑と北側の北の丸公園は常時開放され、それらの外側は一般に利用できる土地になっている。

### (4) 見どころ（写真）



①大手門



②大手三の門



③同心番所



④百人番所



⑤中之門本丸



⑥中雀門



⑦天守台



⑧白鳥濠の石垣と汐見坂



⑨二の丸庭園



⑩本丸表御殿跡

### (5) 名著から学ぶ『江戸の町』

1982（昭和58）年、建築家や宮大工、イラストレーターの専門家集団で著したシリーズ本『日本人はどのように建造物をつくってきたか』の『江戸の町（上）（下）』を参考にした。さすがに名著、東京という大都市の基盤がこの時代に造られた歴史的事実が分かり、奥深い。イラストで分かりやすく解析し、本文は平易で分かりやすい構成になっている。

### (6) 初期の城下町建設

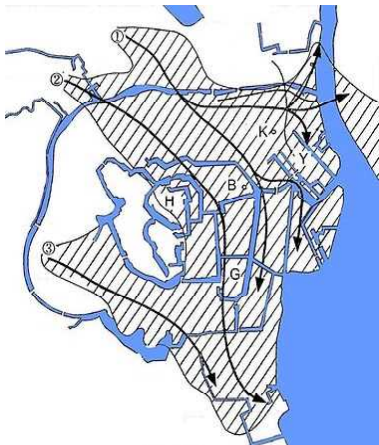
江戸の都市計画は、外国でもあまり例を見ない特異なものであった。自然の地形を巧みに生かしながら、同時に数度にわたる大胆な土木工事を展開し、現在の東京の基礎となった江戸の町を形づくっていった。

上巻では、初期の城下町建設にはじまり、開幕によって江戸が天下一の都市へと成長していく有様、そして、明暦の大火（明暦3、1657年）によって、江戸城の天守閣もろとも町が焼失してしまうまでの、約70年間を描き著す。それはまた、人間の技術力を信じきって、あくことなく都市を、建物を築き続けた江戸の町の人びとが、自然から強烈なしっぺ返しを受けるに至るドラマにも感じられる。この本（上巻）は、江戸の町がどのような考えに基づいて計画されたか、実際の姿をはじめてイラストで綴っている。



## (7) 世界最大の都市に

明暦の大火後、新しい都市計画によって、江戸の町は見事な復興を遂げる。市域は拡大し続けて、18世紀のはじめには、ロンドンやパリをしのぐ世界第一の都市へと発展する。いわゆる大江戸八百八町を支え、盛り立てていったのは、たくましい江戸の町人たちであった。かれらは、超過密の都市生活の中から、浮世絵・歌舞伎などの特異な文化を生み出して世界の人びとを驚かせる。



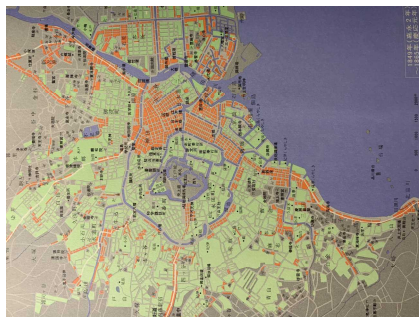
明暦の大火の焼失地域

下巻では、17世紀後半から19世紀後半までの約200年間にわたる江戸の町の発展を中心に、町人の暮らしやさまざまな都市施設のありさまを描いている。巨大化した江戸の町が、新たに発生する都市問題(\*)にいかに対処していったのかを知ることは、現代の都市を考える上で大いに役立つと考える。

\*都市問題：治水と利水、用水と悪水、食糧増産（用水開削、干拓）、3R



明暦の大火を描いた田代幸春画『江戸火事図鑑』



江戸の市域(1849~1865)

## 【資料】 皇居東御苑・旧江戸城史跡巡りルート

### (1) 大手門（大手三の門）

今回の旧江戸城（皇居東御苑）の散策は、大手門から入り所要時間は約2時間程度。大手三の門から入って、中之門、中雀門を抜けて本丸へ向かい、天守台から汐見坂、二の丸庭園、大手門へ戻る。

（無料で入場できる3つの出入り口がある）

東側の江戸城正面に当たるのが大手門である。諸大名は大手門手前に架かる下乗橋で馬を降り、ここから登城して三の丸に入る。勅使の参向、将軍の出入りなどもこの門から行うのが正式だった。現在は皇居東御苑のメインゲートとなっている。



奥：大手門 手前：下乗橋

### (2) 旧大手門渡櫓の鯨わたりやぐら しやち



旧大手門の渡櫓の鯨

大手門の中へ入ると、渡櫓の鯨が展示されている。1945（昭和20）年4月、戦災で消失した旧大手門渡櫓わたりやぐらの屋根に飾られていた鯨しやち。頭部に「明暦三丁酉」と刻んであることから、明暦の大火（1657年）で消失した後、再建された際に製作されたものと推定される。

現在の大手門渡櫓は1968年（昭和43）に再建された。



### （３）同心番所、百人番所、大番所

大手三の門を潜り抜け、城門の近くにある同心番所、百人番所、大番所にも注目したい。番所は城内の要所に置かれ、出入りする人々の管理と監視を行っ



同心番所



百人番所

た管理小屋のような建物。百人番所は、本丸・二の丸へ向かう前の検問所。120人の役人が常駐していたと思われる。諸大名はここで改められ、数人のお供を引き連れて中之門へと向かった。

大番所には平屋建てで、内部に2～3部屋が並立し、正面の屋根の下に<sup>ひさし</sup>庇がついている。同心とは下級武士の役職名で、百人番所には同心とさらに位の高い与力という役職の武士が警護に当たっていた。

### （４）中之門、中雀門



中之門



中雀門

この中之門（写真左）の石垣は、江戸城の中でも最大級となる約36tの巨石で築かれている。

高さ6mにも及ぶ巨大な石垣は、見た目にも美しい、丁寧に加工された隙間のない見事な「切込接ぎ・布積み」の技法で積まれている。

本丸に至る最後の門が中<sup>ちゅう</sup>雀<sup>じやくもん</sup>門（写真右）。逆にいえば、ここが本丸・表御殿の玄関門である。大手三の門、中之門を駕籠に乗ったまま通過を許された徳川御三家（尾張藩、紀州藩、水戸藩）も、この中雀門では駕籠を下りなければならなかった。現在は櫓部分が失われている。石垣に往時を偲ぶことができる。

### （５）本丸表御殿跡と富士見櫓

芝生広場になっているエリアが、本丸表御殿が建っていた本丸跡である。参勤交代で江戸城を訪れた諸大名が将軍と謁見をしたのも、「忠臣蔵」でおなじみの松の廊下があったのも、女性の熾烈な戦いが繰り広げられた大奥も、この本丸御殿である。



本丸表御殿跡



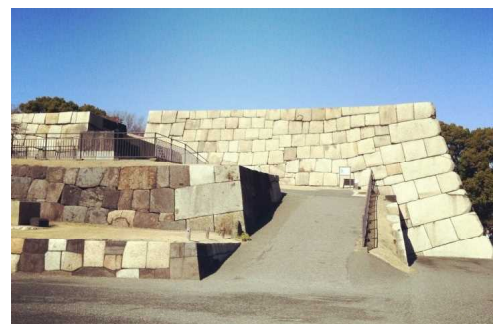
富士見櫓

また、食糧などを保存した石室跡も残されていて、生活様式の一面を垣間見ることができる。各々の場所には標識案内があるので注目したい。

### （６）天守台

かつて天守台の上には、地上5層、地下1階の天守閣がそびえていた。

歴史的には天守は3回建造された。初代将軍・徳川家康が1607年（慶長12）に初代天守（慶長天守）、2代・秀忠が1623（元和9）年に建てた2代目天守（元和天守）、3代・家光が1638（寛永15）年に建造した3代目天守（寛永天守）である。





家光の築いた寛永天守は巨大で、現存する姫路城（兵庫県姫路市）の天守もはるかに凌ぐ巨大な天守だったようだ。しかし、1657（明暦3）年の明暦の大火で焼失し、以後再建されることはなかった。本丸北側に残る天守台は、明暦の大火後に積み直されたものである。

現存するのは、1606年（慶長11年）に黒田長政によって築造された天守台から数えると、4代目の天守台となる。元の寛永12年（1635）の天守台は13mほどあったので、再建時に高さは少し低くなっている。また使用する石も伊豆石から御影石に変えて、より精緻な切石で積まれている。

## （7）白鳥濠の石垣と汐見坂



汐見坂から見た白鳥濠



汐見坂と石垣

汐見坂は江戸城の本丸と二の丸をつなぐ坂道。江戸城築城の際には、江戸湾の日比谷入江が目の前まで迫り、坂の途中から海が見えたことに由来する。往時は坂の上に汐見坂門があった。また、坂の横には白鳥濠があって、堅強な石垣による防御の様子がよく分かる。

天和年間（1681年～1683年）頃に歌学者・戸田茂睡が著した江戸の地誌『紫の一本』の上巻に記載の梅林坂の項で、「此所より海よく見へ、汐のさしくる時は波ただ爰元へ寄るような故塩見坂といふ。今は家居にかくされて見へず」と記しているので、すでに築城後数十年で、日比谷入江の埋め立てが進み、家並みが並んでいたことが分かる。つまり、海が見えたのは築城当初のわずかな時だけ。平川（現在の神田川）は、家康の江戸城築城以前は、日比谷入江に流れ込んでいた。

## （8）二の丸庭園

9代将軍・家重の時代の庭絵図面をもとに復元された日本庭園である。二の丸は、将軍の世嗣（後継者）が全将軍の正室のための御殿が置かれた場所である。鑑賞や遊興の場として親しまれた池泉回遊式庭園は、1630（寛永7）年ごろ武家で茶人の小堀遠州が作庭した。



二の丸公園

現在の庭は1965（昭和40）年に復元されている。

2022. 10. 6  
ウォーキングメンバー

天守台前にて





